

# 『トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会』

## 第2回 開催報告



### 第2回のテーマ

第2回水辺づくり座談会は、第1回座談会で得られた意見を踏まえ、目標とする『天王川水辺再生イメージ』を議論しました。

### 実施の概要

開催日時：平成20年5月24日（土） 13:00～16:30

参加者：総勢53名（住民33名、学識者4名、関係機関4名、報道機関1名、事務局等11名）

座談会進行役：桑子敏雄（東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授）

### 座談会の内容

座談会は、下記の進行で実施しました。

- ① 第1回座談会のおさらい
- ② 第1回座談会で課題点と指摘された事項の現状報告
- ③ 目標とする水辺再生イメージの議論



議論の中では、天王川河口～上流までを一体とした水辺再生を、参加者は期待していることが確認できました。



また、老若男女問わず積極的な発言をいただくことができ、天王川の将来にとって、きわめて意義のある話し合いになりました。

今後、いただいた意見を踏まえ、天王川水辺再生の計画素案を作成し、次の座談会でみなさまに提示したいと考えております。

### 天王川再生のための提案(進行役:桑子敏雄)

- 天王川の再生では、多様な生物が生息しやすい環境をつくりだすために、ホタルが多く舞うところを大切にしながら、中流部では周囲とのつながりを回復し、流れをゆるやかに広げて、洪水対策にもなるような検討を行う。
- ため池の有効活用についても検討を行う。
- 加茂湖との一体性を確保し、流域全体として豊かな生態系を実現する方向で事業を進める。
- こどもたちも川に入り、自然とふれあい、また人々が憩える空間づくりを行う。
- 以上のことを実現するために、多くの人々が立場を超えて学びあい、協力しあう場を創出する。

### 問い合わせ先

新潟県佐渡地域振興局地域整備部 担当 佐々木（計画調整課）

TEL：0259-74-4040

FAX：0259-74-2048

Email：sasaki.tadashi2@pref.niigata.lg.jp

## みなさんの意見

- ◆ 天王川の水辺づくりのイメージについての意見を付箋に書いてもらいました。
- ◆ 付箋を模造紙に張り付けてもらい、その後進行役の桑子先生が意見者へ意図を聞き取り、水辺づくりのイメージをまとめていきました。



意見の分類 (キーワード)	意見	意見の分類 (キーワード)	意見
I 多様な生物が 生息・生育する川	水生生物の生活環境を許容できる川 天王川の河床の植生が貧弱です。トキの餌生物にいい場所を！	VII 水辺と人がふれあ う川づくり	いつ眺めても、いつ歩いても飽きない川 ふらっと立ち寄れる憩いの場 みんなにくつを脱がせる川
A(水生生物)	トキの餌場となる水辺	(景観性)	水や生き物に触れられる水辺
B(河床の植生)	生き物が住み、人が集う場所	(憩い、安らぎ)	岸に座ってながめられる川
C(トキの餌場)	ホタルが増える護岸	(川遊び)	水辺で楽しめる川(案に川に入れるよう)
D(人が集う)	ホタル舞う 米づくりができる水辺	(散策)	子どもが入って川遊びができる天王川
E(ホタル)	ホタルを増やすこと 中流部にはホタルが多いので、改良の場合検討のこと ホタルを増やしたい。どうすればよいか。	(花)	子どもが川遊びのできる川 生き物をつかみに川の中に入ってみたい川にしたい。 川沿いの散策をより楽しめる川づくり 川のそばに花があるとよい。
II 自由度の高い川	天王川下流、川幅を広くしたらどうでしょう。	VIII 水辺での活動	川があることが実感できる生活(まつり、イベントなど、川によって人がつながる) 住民が大事に思える川(いつも川のことを気にしているような何か)
A(川幅の拡幅)	部分的に川幅の広い場をつくる。	(イベント)	川を使いたくなる川(具体的には川を使いたくなる魅力を分かるようにする)
B(流れの多様性)	よどみをつくる。ためをつくる。	(環境学習)	キケン看板の無い川
C(連続性の確保)	流れを遅くして常に水を湛えた川 沢筋、浅場のある川 ・川の流れをゆっくりにする。 ・段差をなくす。 幅広く水田とつながる川	(地域活性化)	農地、農家との協力
III 治水安全度の向上	トキの野生復帰は周辺の農地、遊水池の利用を考えるべき	(河川清掃)	川、湖の生物観察を子供たちの教育と結びつけて 地域の人の、地域の人による、地域のための川づくり
A治水対策	治水について、上流三面張、中下流は断面が不正であり水害のおそれあり		自然に関する意識向上のため天王川の水生生物の資料をHP等に掲載する。 水辺の会のピオトープは、本当に小さな仕事だが、これでよいのかな。
Bため池利用	上流のため池を遊水池利用できないか？(口頭意見) 上流のため池は、洪水を貯留するための施設ではないので堤防の安全性に問題がある(口頭意見)		ゴミを捨てない。ゴミをひろう。
IV 環境に配慮した護 岸整備	自然石による護岸整備	IX 里山の整備	トイレの窓から見たのですが、林が茂りすぎてます。トキの休息地や営巣に利用に配慮することが必要です。
A(自然素材の利用)	三面張りコンクリートの有効的な活用として、ソダを下げて生物の多様性の促進を図る。	(トキの休息地) (トキの営巣地)	交流会館の裏山を手入し、整備する必要がある。木を植える。その他どんなことをすればよいか、人事や費用も必要だが...
V 加茂湖への負荷を 軽減する川づくり	川の水の流出先への環境影響も考えて		
A(濁水除去) B(水質浄化)	休耕地利用の浮遊物のトラップづくりで、川水の浄化で加茂湖のクリーン作戦を...		
VI 加茂湖の自然再 生	加茂湖の筏をトキの安住の場所になりたい		
A(湖岸のヨシ原再 生)	再生するには上流の河川の再生と合わせて事業 加茂湖と関係なく行政は天王川を改修している。 トキの野生復帰は天王川と加茂湖を一体化して考えるべき 天王川河口の状況と工事関連放置物問題 湖の再生(案): 水質浄化促進に向けたヨシの部分的再生 ヨシを湖の岸に植える事により、浄化が可能と聞きました。 魚道は立派になったが加茂湖から上る魚はいない。		